

「まるごと吉野川 “魅力再発見”講座

古くから吉野川との関わりによって育まれてきた阿波の文化・歴史・環境をテーマに
さまざまな角度から吉野川について学んでもらおうという「まるごと吉野川“魅力再発見”講座」。
コロナ禍のなかでしたが、今年度も3つの講座を開催しました。

講演会

吉野川魅力満載物語

人と川のつながりを学ぶ

2022
2/6

今年度の「まる吉」講演会は、吉野

川ファン通信「ふる〜ぶ」の元編集者

で、フリーアナウンサーとして活躍の

藪田ひとみさんを講師に迎え、取材・

編集を通じて知った吉野川のさまざまな

魅力についてお話いただきました。

題して「吉野川魅力満載物語」。オンラ

イン配信も行い、現地・Web合わせて

105人が参加しました。

※ ※ ※

「ふる〜ぶ」は国土交通省徳島河川

国道事務所発行の吉野川についての広

報誌で、平成12年(2000)から約10年

にわたって毎月発行されました。この

編集を務めていたのが藪田さん。「これ

までにない広報誌を」と試行錯誤する

なか、「これは！」と手応えを感じたのは

吉野川の野草を食べる企画。土手で野

草を摘んでいた人に声をかけ、食べられ

る野草、調理法などを教わり、実食し

てレポートしました。こんな吉野川の



吉野川ファン通信「ふる〜ぶ」
「ふる〜ぶ」は、フランス語で「海にそそぐ大河」の意味。2000~2009年の間に111号を発行しました



藪田ひとみさん。ご自身で染めたという藍染めのスーツでご登壇

楽しみ方もあるんですね！この企画は好評で、春の恒例行事になったとか。

これをきっかけに「吉野川をもっと身近に感じてほしい。たくさんの方に

会って話をきこう！」と、公民館などを

訪ね、50〜80代の方に吉野川の思い出

を次々とインタビュー。吉野川で泳いだ、箱めがねで鮎を釣った、遊山箱を持つて土手に出かけた……尽きない吉野

川の思い出。そんななかから、旧穴吹橋

開通式の貴重なエピソード(P8参照)

も取材することができました。

出合いを重ねて10年。約千人の方に

取材をし、ひと、

まち、自然、歴史、風景、吉野川

をとりまくさまざまな表情を、

きめ細やかに誌面で紹介してきた

藪田さん。河口の

ふれあい健康館第2会議室で開催



ふれあい健康館第2会議室で開催

「ふる〜ぶ」バックナンバー
<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/fleuve/>



吉野川の源流を訪ねて高知県瓶ヶ森登山に挑む！ピースはしているものの雨も降って体力ギリギリ。でも、いい思い出です。



吉野川の景観を満喫できる観光列車「藍よしのがわトロッコ」で車内沿線ガイドを務める藪田さん。JR徳島駅〜阿波池田間を走ります。運行日など詳細はJR四国のWebサイトをご覧ください。



名西郡石井町藍畑にある藍屋敷・田中家住宅。高石垣や、軒下に吊るした避難用の舟など、吉野川の洪水への備えが随所に見られます。江戸〜明治時代に建てられた11棟すべてが国の重要文化財に指定されています。



吉野川の野草を使った料理教室。みんなで野草を摘んで調理します。ノビルのパスタ、タンポポゼリーなど名レシピも続々生まれました。

ふる〜ぶVOL.74より